

○「今後の幹線道路網の整備・管理のあり方」について、社会資本整備審議会に諮問(H20.6.20)

○ 道路分科会(H20.7.9)、基本政策部会(H20.10.10)の中で、事業評価に関連して、以下のご意見有り。

- ・道路ネットワークの評価について、量的評価はもちろんだが、質的な、定性的評価が大事。
- ・透明性は今でもかなり確保されている。完璧ではないがB/Cで優先順位を決めている。問題はさすがな計算をする例があり、みんなそうだと思われること
- ・道路ネットワークについて、防衛や危機管理や安全という観点は、B/Cに乗らない、むしろ国としての本質的な機能であり、国家としてどこまで投資を行っていくのかという視点で議論を行うべき。
- ・B/Cについて、ベネフィットのあり方として、もう少し様々な要素を取り入れることが大切
- ・道路事業の評価について、透明性を高めることと、客観性を高めることは別であり、後者については、社会基盤施設の効果は機械的に計算できるものではない。計算に乗らないようなところは国民の代表者が政策判断を行うべき。
- ・事前の評価や意思決定について議論されているが、より重要なのは、完成した施設が当初の目的に合致しているかどうか事後的な評価を行うこと。機械的な評価の手法からは出てこない見識を後世に残すことを根本に持ちながら議論すべき。
- ・道路の必要性を判断するための第三者の機関というのは非常に公正なようで聞こえはいいが、国民が選んでいるわけではないため、ある意味では民主主義を否定していることにもなる。
- ・地方からの要望になかなか応えられない事情があり、公平感、納得感がないと進めていくことが難しい。そのためには地域の意見を聞く場をシステムの中に確保していくことが重要。
- ・事業については事業評価があるが、ネットワークについては評価しておらず、こうした観点の評価が抜けていたことをはっきりさせる必要がある。
- ・需要推計ではのらないが国土形成上必要な路線もある。そういう状況を世の中に言っていく必要がある。

(文責 道路局)

<参考> 第1回委員会における主なご意見について

評価手法の考え方について頂いたご意見

- ・道路は極めて多機能で波及効果も大きい。数値、B/Cのみで評価しようとするのは時代遅れではないか。
- ・道路でも観光道路と生活道路は機能が異なる。道路を全て同じ手法で評価することについては要検討ではないか。
- ・評価を踏まえた意思決定のガバナンスのあり方が問題ではないか。
- ・B/Cが1より上回ることは重要だが、費用に税の機会費用を反映しているのかという話や、便益に実は大きなものが落ちているのではないかという話もあるので、よく考える必要。
- ・費用便益分析は代替的な手段間の効率性を比較評価するための手法
- ・様々な便益を何でも盛り込むことは、分析が不安定になったり、誤った数字を出すなどのリスクがある。
- ・公平や環境配慮など、意思決定者の価値判断に沿った便益を提示できるような手法のメニューを用意しておけばよい。